

令和 6 年度 笑顔あふれる保育資質向上研修会

この研修は、若手教諭が中堅教諭の保育を参観したり、保育について語り合ったりすることで、保育の資質向上を図ることを目的として行っています。

第 1 回目は、11 月に山陽北幼稚園の東 泰穂教諭に、第 2 回目は、1 月にいわなし幼稚園の青山 真子教諭に公開保育をしていただきました。先輩教諭の保育を観せていただくことで、その日のねらいや環境の構成、教師の援助などを見取る力が、回を重ねるごとに深くなってきていると感じています。1 日の保育の流れに沿って自分なりの気づきを話す協議では、参観者だけでなく公開保育者にも気づきがあり、互恵性のある研修になっています。



研修の内容

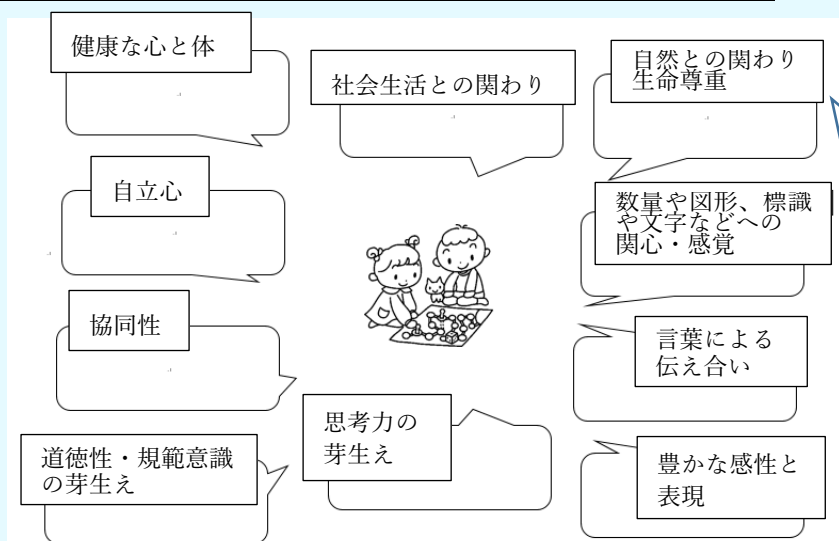
時刻	幼児の活動	教師の援助と環境構成
8:40	○登園する	
9:05	○チャレンジタイムをする	
10:10	○片付けをする	
10:50	○楽器遊びをする（山陽北） ○すごろくをつくる（いわなし）	

見取る目を養う

保育を見取る力をつけるため、指導案のこの部分はあえて空白にしてもらっています。どのような環境構成や教師の援助があったかを、協議の中で話し合うことによって、新たな気づきを得る機会がもて、自分の保育に活かすことができるようになっています。

視点をもって観る

クラスでの活動を、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『10の姿』を視点として見取り、話し合います。公開保育者の話を聴く中では、幼児一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況づくりや、きめ細かい配慮を行っていることにあらためて気づかされ、自分の保育を振り返るきっかけになっています。



山陽北幼稚園では、クラスの活動で楽器遊びを参観しました。箱の中からいろいろな楽器が出てくる導入に子どもたちの目が輝き「はやく楽器遊びがしたい!」という気持ちがあふれていました。楽器を演奏しながら、歩いたり止まったり、動物のなき声に合わせてリズム打ちをするなど、3 歳児の発達段階や興味に合った楽しい楽器遊びでした。参観者は、子どもの動きを見ながら絶妙なタイミングで声をかけられる先生の姿に、思わず憧れや尊敬のまなざしを向けて見入っていました。

いわなし幼稚園では、広い遊戯室いっぱい、すごろくのマス目の道がつくられていました。マス目の数や言葉を考えて遊びの準備をする姿は、自分たちで『遊びを創る楽しさ』を感じていました。教師は、子どもたちのアイデアを見守り、必要な時に適切な援助を行い、友達同士で相談しながら遊びを進めていけるような援助をしていました。参観者は、少人数の良さを最大限に生かしたダイナミックなすごろくづくりに「こんな方法もあるんだ!」と感動していました。

昨年度から、小学校の先生や私立こども園の先生方も参観してくださるようになっていきます。幼稚園教育は環境を通して行い『遊びの中での学び』があることを実際に観ていただき、ここで培ってきた学びや育ちを小学校へとつなぐことができるよう、そして保育の資質向上が子どもたちの笑顔につながるよう今後も連携を図っていきたいと思っています。